

平成25年度施策評価シート

基本施策	誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことのできる環境をつくる		
総合計画での位置付け	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	分野	3	スポーツ
主要な計画	・スポーツ振興基本計画		
基本施策を実施する背景や課題・目的	<p>・生活様式の多様化や健康志向の高まりなどにより、レクリエーションや健康づくり、本格的な競技などスポーツに対するニーズは年々高まっている。</p> <p>・本施策は市民一人ひとりが世代に応じたスポーツ活動のなかで「ひと」として成長することのできるこころの「ゆたかさ」のあるまちづくりをすすめるため、誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことのできる環境づくりを目的としている。</p>		

1 概要

施策	目的	施策の内容	対象	施策の内容の目的	これまでの取り組み	担当部局
1 スポーツ活動の充実	誰もが気軽にスポーツ活動に親しむことのできる環境を整備するとともに、スポーツ活動を通じ地域の連帯感の醸成や地域の活性化を図る。	スポーツ活動に係る指導者などの育成・強化	スポーツ指導者	地域スポーツをリードし、生涯スポーツ社会を実現していくための人材が豊富に存在する。	・市体育協会が主催する競技団体指導者育成のための研修会や、スポーツ推進委員による軽スポーツ及びラジオ体操の実技講習など、市と連携して行っている。 ・スポーツ少年団においては、県内外で行われる指導者研修会に積極的に参加している。	市民活動部
		体育指導委員や関連団体などと連携した気軽に参加できるスポーツ教室やスポーツイベントの実施	全市民	スポーツ教室やスポーツ大会等に多くの市民が参加する。	・スポーツフェスティバルや、ふるさとてくてくウォーキング、そりすべり大会など全市民を対象にしたスポーツイベントを行っている。 ・サッカーや水泳、スキーなど様々な競技種目でスポーツ教室を実施している。	市民活動部
		健康づくりにつながるスポーツプログラムの開発と普及	全市民	スポーツ関係団体(体育協会やスポーツ少年団等)とスポーツ競技団体が協力して、誰もがスポーツ体験ができるプログラムを実施する。	・市体育協会や競技団体等と連携し、個々の年齢や技術、体力レベルに合った運動指導やスポーツ体験を行っている。(トレーニング教室やビッグアリーナ無料開放デーにおいて行うスポーツ教室)	市民活動部
		地域におけるスポーツ活動の充実	全市民	地域におけるスポーツ活動により、体力向上や健康の保持増進に加え、地域内のつながりや協力関係が築かれる。	・グラウンドゴルフやウォークラリーなど、年齢を問わず参加できる軽スポーツやレクリエーション活動への取り組みをスポーツ推進委員が中心となって地域ごとに実施している。 ・7月開催の全市一斉ラジオ体操では、小中学生のほか地域住民の参加を促している。	市民活動部
		競技スポーツの普及と競技力の向上	スポーツ活動実践者	全国大会や世界大会へ出場する選手を多く輩出する。	・飛騨高山ブルックブルズ岐阜やFC岐阜、名古屋オーシャンズなど地元にかかわりのあるチームとの交流や教室を通じて競技人口の拡大を図っている。 ・競技団体やチーム等には「飛騨高山スポーツナビ」システムの活用を広く呼びかけ、団体・チームとスポーツに取り組みたい人との橋渡しを行っている。 ・世界大会、全国大会への出場者に対し、激励金を交付している。	市民活動部
		スポーツに対する意識の高揚	全市民	アスリート等とのふれあいにより、子どもたちに夢を与え、スポーツに取り組むきっかけとなる。また、市民は生涯スポーツの重要性を認識する。	・トップアスリートを招聘し、子どもから大人までがスポーツに関心を持ってもらうため、スポーツ講演や実技指導を実施している。 ・「ぎふ清流国体」1周年を記念したスポーツイベントを9月後半から約2週間集中的に開催し、市民への参加を広く呼びかけるなど意識の高揚を図った。	市民活動部

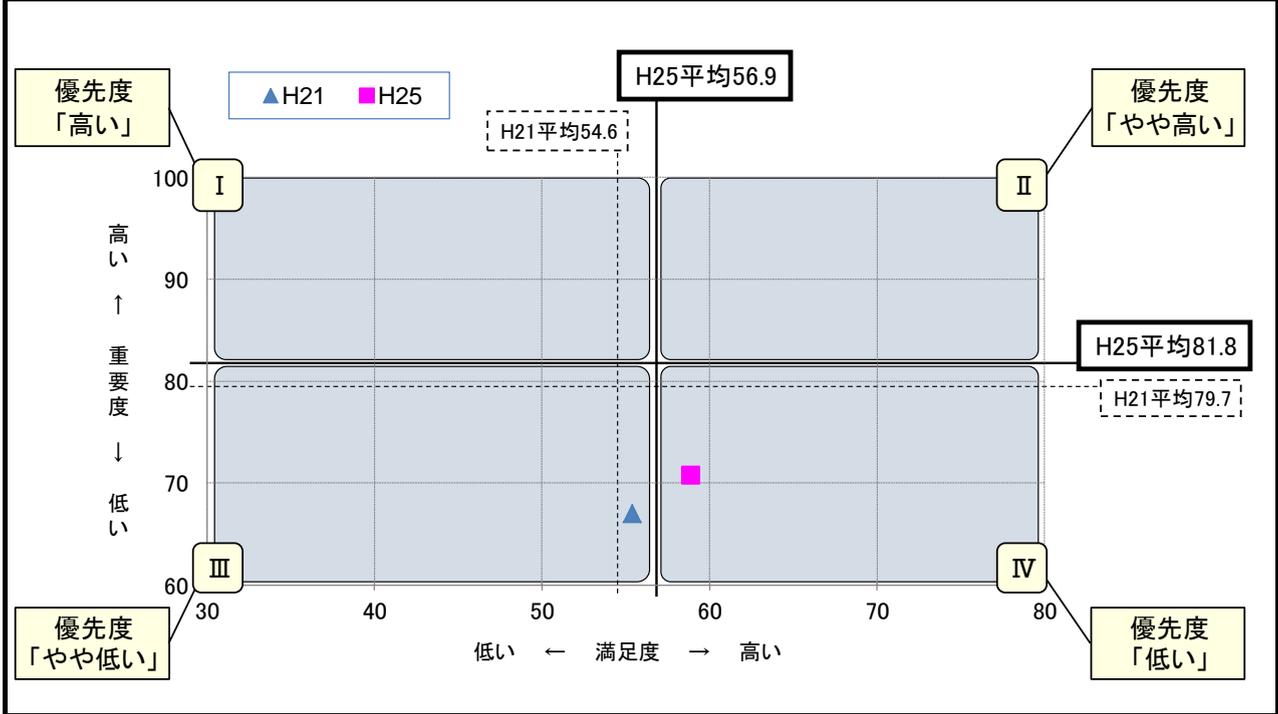
			ぎふ清流国体の成功に向けた関係団体との連携強化、市民の総力を結集した取り組みの推進	全市民	平成24年ぎふ清流国体において、スキー、バスケットボール、ハンドボール、アーチェリー競技を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 市民によるミナモの雪像や応援のぼり旗の制作、プランター花の育成など、全市民的に歓迎装飾を行い、歓迎ムードを高めることができた。 競技団体や学校関係者、市民ボランティアなど大勢の協力を得て、各会場ごと、競技運営やおもてなしにおいて選手や来場者に満足いただいた。 	市民活動部
2	スポーツ施設の整備	誰もが施設を利用して、安全で安心してスポーツ活動に親しむことができる環境の整備を図る。	誰もが健康づくりを行える健康増進施設などの整備	全市民	全市民が気軽に社会体育施設等を利用した健康づくりに取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 市総合交流センター建設計画は、平成22年9月に一時休止となった。 健康増進施設の整備については、「高山市総合交流センター検討委員会」の結果報告書や、民間事業者の市内進出・断念等の状況をふまえ、市としての施設のあり方について、改めて検討を行っている。 	市民保健部
			施設の利便性の向上と利用の促進	全市民	体育施設を適正に管理運営し、誰もが安全で快適に利用できる。	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心して利用していただけるよう老朽化している施設の修繕や改修をすすめている。 従前から地域で行っているスポーツ教室の開催やビッグアリーナの無料開放デーの創設など市民への施設利用に向けた機会の提供により利用促進を行っている。 	市民活動部
			飛騨御岳高原高地トレーニングエリアの整備や有効活用とナショナルトレーニングセンターとしての機能強化の促進	施設利用者	医科学的サポート等の受け入れ体制の充実を図り、トレーニング環境を整備することで、様々な競技のアスリートたちが訪れる。	<ul style="list-style-type: none"> 飛騨御岳高原高地トレーニングエリアは、ナショナルトレーニングセンター高地トレーニング強化拠点施設の指定を受けている。 国からの委託事業を積極的に活用するなど、医科学的サポート機能をはじめとするトレーニング環境の整備をすすめている。 トレーニングセンター周辺施設を満足して利用いただくため、クロスカントリーコースの新設や陸上トラック改修を行った。 	市民活動部

2 指標の推移

指標名	単位	関連 施策	好まし い 方向	H21	H22	H23	H24	目標	指標値の把握方法 目標値設定の考え方
スポーツ推進委員活動数	回	1-ア	↑	61	52	57	69	60	スポーツ推進委員会が報告する活動件数。目標値は事業計画から推計している。
スポーツ教室参加者数	人	1-イ、ウ、エ	↑	10,578	12,563	13,384	11,227	13,000	スポーツライフ推進事業(市予算)に位置付けている教室の参加者数。目標値は定員の合計値。
スポーツ少年団員数	人	1-オ	↑	1,708	1,660	1,626	1,571	1,560	4月1日現在の市スポーツ少年団員数。目標値は、全児童数の3割を設定。
施設利用登録団体数	件	1-オ、カ		140	113	123	52	-	予想が困難なため設定できない。
社会体育施設利用者数	人	1-カ 2-イ	↑	576,322	588,673	549,443	588,775	590,000	各施設の1年間の利用者数の合計。目標値は各施設毎の過去5年間の最大値の合計。
ぎふ清流国体来場者数	人	1-キ		-	-	34,628	101,310	-	事業終了のため設定できない。
夜間照明施設利用者数 (学校グラウンド)	人	2-イ	↑	31,908	34,478	23,951	32,291	40,000	各施設の1年間の利用者数の合計。目標値は各施設毎の過去5年間の最大値の合計。
高地トレーニング施設利用者数	人	2-ウ	↑	599	941	1,666	1,726	2,200	高地トレーニングセンターの年間利用者数。目標値は、平成24年度実績の3割増しで設定。
担当部局	補足説明								
市民活動部	<p>・社会体育施設の利用登録団体数については、インターネットを活用した施設予約システムでの団体登録数を計上。平成19年度から当システムでの登録事務を行っており、平成24年度までの累計で1,319団体が登録している。</p> <p>・ぎふ清流国体来場者については、平成23年度は冬季大会、平成24年度は本大会の来場者数を計上している。</p>								

3 市民アンケートの結果

		現在の「満足度」		今後の「重要度」		市民満足度を高めるために改善等を行う優先度	
H21 (前回)	点数	55.4	(平均) (54.6)	67.0	(平均) (79.7)	IV	低い
	順位	42施策中 20 番目		42施策中 40 番目			
H25 (今回)	点数	58.9	(平均) (56.9)	70.8	(平均) (81.8)	IV	低い
	順位	43施策中 16 番目		43施策中 42 番目			



※「満足度」、「重要度」・・・まちづくり市民アンケートに対する各項目の回答件数をもとに点数化した数値

$$\text{満足度} = \frac{(\text{満足}) \times (50) + (\text{やや満足}) \times (25) + (\text{やや不満}) \times (-25) + (\text{不満}) \times (-50)}{(\text{回答数}) - \{(\text{分からない}) + (\text{無回答})\}} + 50$$

$$\text{重要度} = \frac{(\text{重要}) \times (50) + (\text{やや重要}) \times (25) + (\text{あまり重要でない}) \times (-25) + (\text{重要でない}) \times (-50)}{(\text{回答数}) - \{(\text{分からない}) + (\text{無回答})\}} + 50$$

※市民満足度を高めるために改善等を行う優先度

「満足度」が平均未満で「重要度」が平均以上の施策	→	I 優先度が「高い」
「満足度」が平均以上で「重要度」が平均以上の施策	→	II 優先度が「やや高い」
「満足度」が平均未満で「重要度」が平均未満の施策	→	III 優先度が「やや低い」
「満足度」が平均以上で「重要度」が平均未満の施策	→	IV 優先度が「低い」

4 一次評価(担当部局による評価)

担当部局		市民活動部	
施策	施策の内容	七次総合計画における検証(成果や課題)	今後の方向性
スポーツ活動の充実	スポーツ活動に係る指導者などの育成・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・競技団体によっては、ぎふ清流国体を契機に指導者の世代交代が進んでいるが、一方、これまでの取り組みの成果を引き継いでいける指導者の育成が必要である。 ・スポーツ推進委員が地域のスポーツ行事において、審判や講師などの指導者的な立場で参加する機会が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育協会等と連携し、指導者養成のための研修機会の確保と充実を図る。 ・スポーツ推進委員の研修事業の充実を図る。
	体育指導委員や関連団体などと連携した気軽に参加できるスポーツ教室やスポーツイベントの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとにスポーツ推進委員と地区社教等が連携し取り組んでいる、軽スポーツイベントやスポーツ教室等の内容を見直し、マンネリ化や少子高齢化等による参加者数の減少への対応が必要である。 ・スポーツ推進委員と市体育協会とが連携し、全市民を対象としたスポーツフェスティバルを毎年開催しており、参加者も年々増えている。 ・競技レベルや年齢を考慮したスポーツ教室や大会などの機会を増やすことが課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が多くなるようにスポーツ大会やスポーツイベントの内容を見直していく。 ・関係機関、団体や行政関係課と連携し、高齢者や障がい者の体力づくりの増進や健康推進の場づくりにつとめていく。 ・スポーツ推進委員と連携し、誰もが参加しやすい軽スポーツの普及につとめていく。
	健康づくりにつながるスポーツプログラムの開発と普及	<ul style="list-style-type: none"> ・市体育協会が主催するスポーツ教室やトレーニング講習会は、多くの市民が参加できるプログラムである。 ・平成25年度から実施している「ビッグアリーナ無料開放デー」は、各競技団体の指導者が初心者にスポーツ体験の機会を提供することで、競技人口の増加に効果がある。 ・練習日数への負担や勝負へのこだわりがある少年スポーツクラブや部活動を敬遠しがちな子どもが存在する。 ・各個人に合うスポーツ探しや体力づくりを目的としたプログラムの開発が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人における主体的なスポーツへの取り組みとライフスタイルに応じてスポーツに取り組める環境の整備をすすめる。 ・日常的な運動や身近なスポーツ活動に関する情報提供を充実させる。 ・市体育協会などと連携し、教室受講者が長く続けられるメニューづくりを研究していく。
	地域におけるスポーツ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・合併前からの地区社教や町内会を単位とした軽スポーツや運動会などのスポーツ行事が継続的に展開され、地域の絆が深められている。 ・地域における人口の偏りから、地域ごとに取組内容や実施件数に差異がみられる。 ・地域内のつながりを強化するためにも、あらゆる世代が参加できるようなメニューの開発、実施が必要である。 ・スポーツ推進委員が中心となって活動していた総合型地域スポーツクラブ「ひっぽっ歩」が活動を休止しており、県が目指す1市1クラブの実現に至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツによる地域間の交流の輪を広げ、エリアを広げたスポーツ活動の普及を図っていく。 ・総合型地域スポーツクラブの趣旨に沿った新たなクラブの設立に向けた取り組みをすすめる。
	競技スポーツの普及と競技力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ぎふ清流国体を目指す中で、競技団体が中心となり選手の育成及び強化をすすめた結果、県下において過去最高の入賞者を輩出するなど競技水準が大きく引き上げられた。 ・国体終了後、「飛騨高山ブラックブルズ岐阜」が誕生し、日本ハットホルリーグに参戦する地域の社会人チームとして、全国での活躍が期待されるなど注目を集めている。 ・少子化と相まってスポーツ少年団の団員数が年々減少を続けており、今後、種目によっては競技力の低下が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達がスポーツを通じて将来の夢を育むことができるよう、幅広い分野でトップアスリートを招聘し、スポーツの魅力や醍醐味にふれる機会を創出する。 ・日本ハットホルリーグに参戦する地元チーム「飛騨高山ブラックブルズ岐阜」の活動を側面から支援していく。 ・スポーツ少年団への加入の促進を図る。 ・競技団体等と連携してジュニア選手の育成を強化する。

スポーツに対する意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・FC岐阜、名古屋オーシャンズ、飛騨高山ブラックブルズ岐阜の国内リーグに参戦しているチームメンバーらが市民と触れ合ったり、子ども達に直接指導するなど、スポーツを身近に感じてもらう活動を展開しており、子どもを中心に参加者も多くその効果は大きい。 ・子どもに夢を与えるトップアスリートを招聘し、直接指導していただく意義は高くその効果も大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人チームと市民が触れ合う機会や試合観戦する機会を増やすなど地元チームへの関心度(応援熱)を高めていく。 ・国体開催を記念したスポーツウィークを定着させるなど、市民が気軽にまた身近にスポーツに取り組める環境づくりをすすめる。
ぎふ清流国体の成功に向けた関係団体との連携強化、市民の総力を結集した取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな施設の整備によらず、既存施設を利用して冬季、秋季両大会を実施できた。 ・多くの小中学生、高校生が観戦に訪れ、トップアスリートの活躍を間近で見ることができた。 ・冬季大会、本大会の開催を契機に、市民のスポーツに対する意識が高まっている。 ・競技団体等関係者からは、今後において、全国規模クラスの大会招致に期待の声があがっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国体開催を記念したスポーツウィークを定着させ、各種大会やスポーツ教室など様々な催しを集中的に開催することで、市民のスポーツに対する「意識の向上」と「取り組むきっかけづくり」をすすめる。 ・(再掲)日本ハンドボールリーグに参戦する地元チームである「飛騨高山ブラックブルズ岐阜」の活動を側面から支援していく。
スポーツ施設の整備	誰も健康づくりを行える健康増進施設などの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者による健康増進施設(温水プール等)の整備に向けた準備がすすめられていたが、諸事情により計画が中止された。 ・利用者のスポーツニーズを的確にとらえ、民間を含めた既存施設の役割などを整理し、施設の必要性等を検討していく。
施設の利便性の向上と利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して施設が利用できるように修繕を計画的に行っており、利用者が増加している。 ・体育館施設のつり天井などの非構造部材の落下防止対策が必要な施設があり、更なる安全性を高める必要がある。 ・施設利用登録団体も1300件を超え、システムからの予約申し込みによる利用が定着した。 ・市内にはサッカー専用グラウンドがなく人工芝専用グラウンドの設置が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非構造部材の落下防止対策と老朽化等による施設修繕を計画的にすすめる。 ・サッカー専用グラウンドの設置について検討する。 ・全国規模の大会招致に努めるなど、県内外からの施設の利用促進を図る。
飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアの整備や有効活用とナショナルトレーニングセンターとしての機能強化の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会を設置するなど、下呂市や関係団体と連携を図りながら高地トレーニングエリア利用にかかる誘致活動を展開し、利用者の拡大につなげている。 ・陸上競技以外の団体の利用もみられることから、各種競技に対応できる施設環境の整備が必要となっている。 ・県内外のトップアスリートの利用は年々増えているが、地元競技者等の利用促進への働きかけを強化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーニングエリア全体の利用促進を図る。 ・恵まれた自然環境を活かし、健康と観光の融合を目指した高地トレーニングエリアの新たな活用を検討する。 ・地元中学校や高校部活動など、市民の利用を図る。 ・地域への経済的、雇用的効果を高めるシステムを検討する。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のスポーツニーズは多様化してきており、子どもの体力向上、中高年・高齢者の体力づくり、障がい者スポーツの推進など更なるスポーツ振興策が求められている。 ・多様な市民の要望に応えられるよう指定管理者と連携しながら、より効率的で効果的な施設運営やサービス水準の向上に努めていかなければならない。 ・体育施設の利用者数やスポーツ教室の参加者数は、ここ数年大きな変動はみられないため、利用者の拡大や参加者を増やす取組や工夫が必要である。 ・トップアスリートの招聘など子ども夢創造事業を推進することで、スポーツ少年団活動を活発化し、若い世代の競技力の底上げにつなげたい。 ・スポーツ施設の整備については、グラウンドの人工芝化など既存施設の有効活用の検討も含め、機能の充実に努めていく必要がある。 ・高地トレーニングエリアと地域との密接な関係を築き、地域への経済的、雇用的効果を高める仕組みづくりをすすめる。 <p>(まとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市体育協会やスポーツ推進委員とともにすすめてきたこれまでのスポーツ振興施策を引き続き推進していく。 ・スポーツ基本法の制定趣旨やスポーツ活動における課題を的確に把握し、市体育協会等との役割分担や連携、スポーツ施策の優先性を見極めながら、これからのスポーツ振興施策に反映し着実に推進していく。 ・推進にあたっては、市体育協会を中心に、スポーツ推進委員、スポレク団体、保健福祉教育等行政内の 	

担当部局		市民保健部	
施策	施策の内容	七次総合計画における検証(成果や課題)	今後の方向性
スポーツ施設の整備	誰もが健康づくりを行える健康増進施設などの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・市総合交流センター建設計画は、平成22年9月に一時休止となった。 ・健康増進施設の整備については、「高山市総合交流センター検討委員会」の結果報告書や、民間事業者の市内進出や断念等の状況をふまえ、既存のスポーツ施設(市・民間)の利用状況も勘案し、「市としての施設のあり方」について、改めて検討を行っている。 ・「市としての施設のあり方」を検討していくにあたっては、利用対象者の想定や、既存の市スポーツ施設の今後の対応、民間施設の動向等を勘案する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係課による「市としての施設のあり方」についての検討を行い、今後の方向性を決定する。
総括		<ul style="list-style-type: none"> ○水中での浮力を活かし、適した水温のなかで運動が可能な温水プールをはじめ、その他の付帯施設を含めた健康増進施設は必要である。〔高山市総合交流センター検討委員会の結果報告書(H23.12.19)〕 ○(株)コバンが高山市進出を断念され、現状ではプール整備を見直す方向性が定まっておらず、早急な検討が必要である。 	

5 二次評価(企画課、総務課、財政課評価)

課題	今後の方向性
<p>主な課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が少ない施設やソフト事業がある。 ・老朽化が進行している施設がある。 <p>ということが挙げられる。</p>	<p>市民アンケートの結果、施策に対する現在の満足度がやや高く、今後の重要度が低くなっているが、生涯にわたってスポーツに親むことができる環境づくりは大切であるため、スポーツ振興基本計画に基づき、誰もが健康で明るく豊かな生活を送ることのできる生涯スポーツ社会を実現していく必要がある。</p> <p>特に、利用者ニーズを的確に把握した効果的な事業展開が必要である。</p> <p>また、各施設の老朽化の度合いや利用頻度を踏まえ、統廃合も含めた改修計画を策定し、効率的に整備を進めていく必要がある。</p>

6 外部有識者の評価・意見

<p>七次総合計画における検証に対する評価・意見</p>
<p>・各施策の内容について検証は「～している」とのみ記載され、どの程度の成果が得られたのか不明である。同様に今後の方向性も定性的に今後取り組むことが記載されているだけで、その必要性や重要性等は不明である。</p> <p>・スポーツ活動の充実においては参加状況やニーズの把握に基づく評価、課題抽出が、スポーツ施設の整備では利用状況、老朽化、機能の重複等に基づく評価、課題抽出がそれぞれ必要である。</p>
<p>今後の方向性に対する評価・意見</p>
<p>・スポーツ活動の充実では参加状況やニーズ等に応じた事業・プログラム等内容の差し替えが、スポーツ施設の整備では利用状況や老朽化、機能の重複等を考慮した施設の統廃合・長期修繕計画が必要である。</p> <p>・スポーツイベントを単なる市民の健康増進から産業・観光振興につなげ、より費用対効果を高める仕組み等を設けることも必要である。</p> <p>・高齢化の進行に伴い、生涯スポーツはますます重要性を高めている。国の施策や競技団体とも連携しながら、市の役割を明確にしながら今後の方向性を模索することが求められる。</p>
<p>その他意見</p>
<p>・主な取り組みがスポーツプログラム等の提供、スポーツ施設の整備・維持管理であることから、それぞれがどの程度有効なものなのかをモニタリングし、事業や施設の廃止・差し替えも含めどの様な課題があり、どの様に対応していくのかを次期総合計画には明確化すべきである。</p>

【参考】基本施策に関連する予算事業の分析・評価(平成25年度事業評価における担当課評価)

関連 施策	事業 コード	事業名	評価					点数	事業費決算額(千円)	
			市民ニ ズの確 認	市が実 施する必 要性	活動内 容の有 効性	執行方 法の効 率性	政策面 における 評価		H23年度	H24年度
1-ア、エ	95110	スポーツ推進委員会事業費	A	A	B	A	B	80	7,878	7,987
1-ア、オ	95125	スポーツ少年団育成補助金	A	A	B	B	B	70	750	750
1-イ、エ、カ	95100	スポーツライフ推進事業費	A	A	A	B	B	80	1,949	2,260
1-オ	95130	各種体育大会開催補助金	A	A	A	B	B	80	6,450	6,450
1-オ、カ	95135	体育総務事務費	A	A	-	B	B	75	2,252	2,418
1-ア、ウ	95230	体育施設維持管理費	A	A	A	B	A	90	172,766	170,812
2-イ	95235	夜間照明体育施設維持管理費	A	A	B	B	A	80	2,630	2,533
2-イ	95240	体育施設改修整備事業費	A	A	-	B	A	88	29,916	47,422
2-イ	95245	体育施設管理事務費	A	A	-	B	A	88	4,133	4,300
2-ウ	95238	高地トレーニング強化拠点施設高機能化事業	B	A	A	B	B	70	12,678	18,051

集計	区分	個数					平均点	H23年度	H24年度
	A	9	10	4	1	4	80.1	241,402	262,983
	B	1	0	3	9	6			
	C	0	0	0	0	0			
	-	0	0	3	0	0			